推進校別事業実績報告書

＜取組と成果のポイント＞
- 道徳的価値を内面的に自覚する授業展開により、価値理解、他者理解、人間理解を深めることができた。
- ボランティア活動に取り組むことで、地域の一員としての自覚や地域への愛着を深める生徒が増加した。
- 家庭や地域と連携したことで、家庭、地域、学校が一体となった道徳教育を進めることができた。

１　推進校の概要

学校名	所在地	電話番号	生徒数	備考
あま市立七宝北中学校	愛知県あま市七宝町遠島十坪 117 番地	052－441－7700	200 名	

２　研究課題

（１）　学校の教育課題を踏まえた道徳教育の内容の重点化
　ア　人間としての在り方や生き方の自覚を深め、豊かな心を育む道徳教育の推進
　イ　社会と人のために主体的に考え行動する気持ちを育み、公共心を高める道徳教育の推進
（２）　道徳教育の計画的推進と「道徳の時間」の創意工夫
　ア　話し合いを核にした豊かな学びを生み出す授業づくりの工夫
　イ　各教科・総合的な学習の時間・特別活動と道徳の時間を結びつけた道徳教育の工夫
（３）　指導体制や家庭・地域との連携体制の充実
　ア　家庭や地域との連携による道徳教育推進の工夫
　イ　学校が取り組んでいる道徳教育に関する情報を家庭・地域へ発信することの工夫
（４）道徳の時間で育んだ道徳的実践力を具体的な行動として発揮する機会の設定

３　研究主題とその設定理由

社会と人のために主体的に考え行動できる生徒の育成

～話し合い活動を通し、公徳心を育み、豊かな人間性・社会性と高い公共心の育成を目指して～

本校では、校訓「剛健・正義・仁愛・創造」を核にし、「人としての基を築き、自らを高める生徒の育成～人間性・社会性の豊かさをめざして～」を重点目標に据え、日々教育活動を進めている。「人に信頼され、人に必要とされる人間になろう」を合言葉に、実践を積み重ねている。

本校生徒の実態は、生徒・保護者対象の意識調査の結果から、「主として集団や社会との関わりに関すること」の項目について特に意識が低いという傾向が見られた。実際、生徒の様子を見ると、コミュニケーション不足や自分さえよければいいという身勝手な考えからトラブルが発生し、教職員がその対応に追われるケースが少なくない。これは、いつも同じ集団や環境の中で生活しているためであり、小規模校である本校の悩みでもある。このように、身勝手な言動がまかりとおりやすい環境の中で生活している生徒に対し、公共心を育んでいくことは、本校の大きな課題であり、目標でもある。

一方、道徳授業の現状は、前述のような生徒の実態に対して、公共心を育むための教材の開発や指導方法の研究は必ずしも十分とは言えない。そのためには、自分の考え方をもとに自らが問いを発しながら級友と語り合い、主体的に道徳的価値観を育んでいくような道徳授業が必要である。

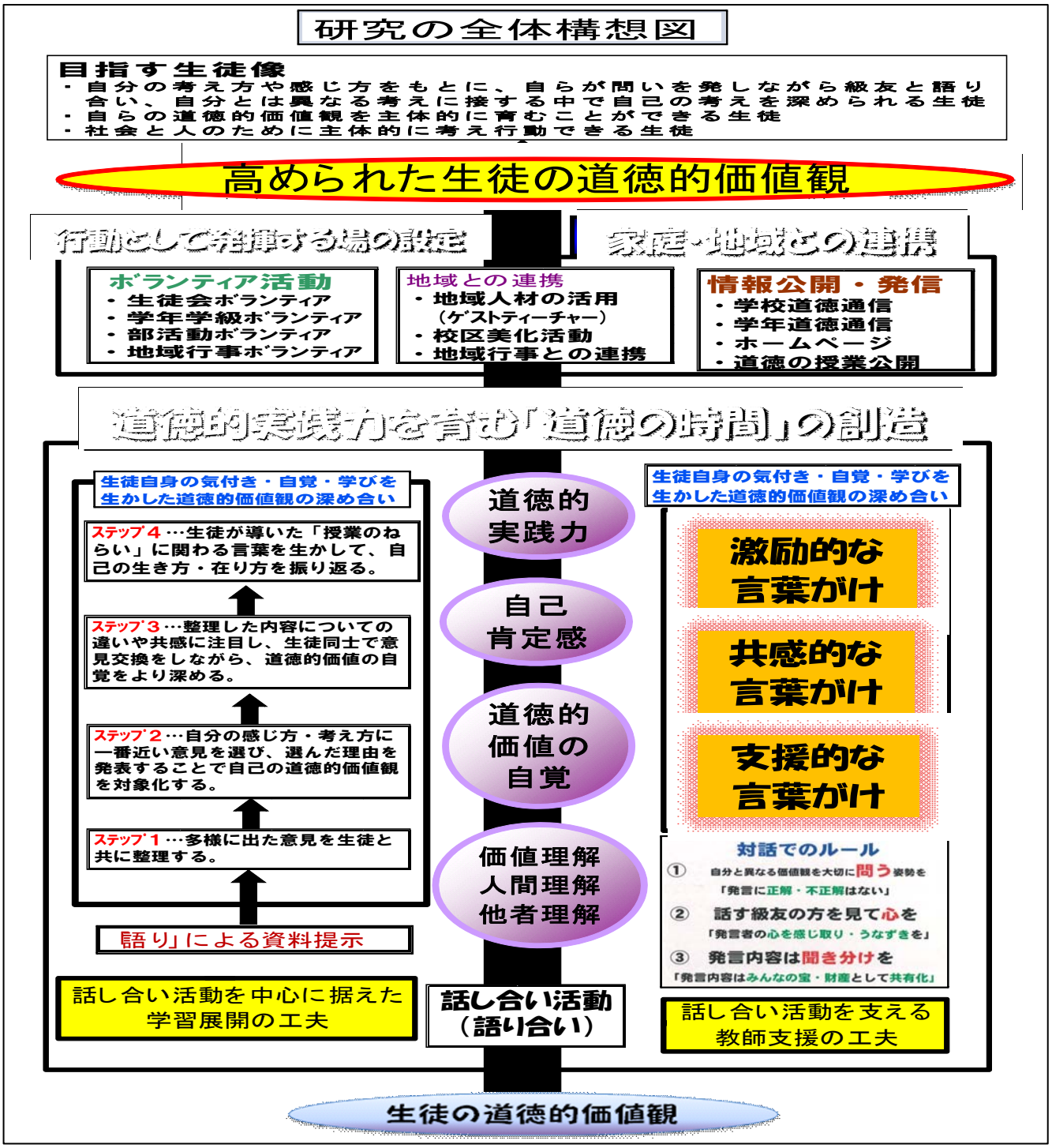
そこで、本校では、「よりよい集団や社会を実現するために具体的・主体的に行動しようとする心の総体」を公共心と定義し、この公共心は、内容項目「公徳心・社会連帯【４－（２）】」だけでなく、「相手の心を考えて行動する力【２－（２）思いやり】」や「人の役に立とうという心・ボランティア精神【４－（５）社会奉仕】」、「ルールとマナーの重要性【４－（１）遵法の精神】」などによって形づくられると考えた。そして、この考えに基づき、これまでの教育活動全般を道徳教育の視点から深く見つめ直し、道徳授業の実践的な研究・改善を図り、積極的に家庭や地域と連携して、ともに心を育む道徳教育を推進することで、「社会と人のために主体的に考え行動できる生徒の育成」を目指して、研究に取り組むこととした。

４　研究の概要

（１）研究の仮説

話し合い活動を授業の中心に据えた指導過程づくりや話し合い活動のための教師支援を工夫すれば、
ア　生徒自らが気づき、考えを深め、主体的に学びを生み出す道徳授業ができるだろう。
イ　人間としての生き方についての考えを深め、自らの成長を実感できる学びが生み出せるであろう。
ウ　それらの道徳授業を地域・保護者に積極的に公開・発信していけば、生徒、学校、家庭・地域社会が連携し、ともに学び合い、成長し合える場を生み出せるだろう。また、その中で生徒たちは公徳心を育み、高い公共心をもった人間として成長していくであろう。

（２）研究の構想



（３）研究の組織

学校関係者委員会（校長・教頭・教務・校務・道徳教育推進教師・学校評議員・ＰＴＡ役員）

- 研究推進委員会（校長・教頭・教務・校務・道徳教育推進教師・学年主任・主査）
  - 授業研究部会（教務・道徳教育推進教師・担任）
    - ・道徳の時間の指導方法や授業内容の検討など
  - 環境・整備部会（校務・道徳教育推進教師・学年主任・担任）
    - ・道徳教育全般についての計画や校内環境整備など
  - 地域連携部会（教頭・生徒会担当教師）
    - ・ゲストティーチャーとしての地域人材活用やボランティア活動の実践計画、情報発信など

５　研究計画

４月……研究計画・授業研究・公開授業
５月……公開授業・授業研究・学校関係者委員会・生徒会ボランティア
６月……生徒会ボランティア・公開授業・講演会
７月……公開授業
８月……部活ボランティア・道徳指導案づくり（３５時間分）
９月……授業研究
１０月……学年、学級ボランティア・授業研究・学校評価アンケート・地域ボランティア
１１月……校区美化活動・公開授業・授業研究・学校関係者委員会・要請訪問（道徳授業公開）
１２月……授業研究
１月……授業研究・学校評価アンケート
２月……要請訪問（代表学年道徳授業公開）・研究のまとめ・学校関係者委員会
３月……次年度に向けての計画・授業研究

６　これまでの取組と成果

（１）道徳的実践力を育む「道徳の時間」の創造

ア　話し合い活動を中心に据えた指導過程づくりの工夫

●　資料提示の工夫（語りによる資料提示）

資料提示の工夫として、授業者による語りによって資料の読み聞かせを行った。生徒を資料に引き込み、話の展開をドラマチックに伝える効果をねらうためである。間をとることで緊迫感を出したり、授業者の表情で主人公の悲しみを表現したりするなど工夫した。

・　生徒は高い集中力で、資料の内容を聞き取ろうとする姿勢が見られた。
・　国語的な読解力が低い生徒でも、語りや読み聞かせならば話の内容や雰囲気を理解しやすく資料に引き込みやすいという効果があった。

●　生徒の考えを多様に引き出し、そこからさらに思考を深めていく授業展開の工夫

的確な中心発問を用意し「互いの意見を吟味する話し合い活動」を授業展開の中に位置づけた。そうすることで、生徒が感じた考え方を基軸とした話し合いを生み出し、生徒自身の力で道徳的価値を追求していく授業展開を設定した。中心発問から自己の振り返り段階において、

ステップ１…多様に出た意見を生徒と共に整理し、
ステップ２…自分の感じ方・考え方に一番近い意見を選び、選んだ理由を発表することで自己の道徳的価値観を対象化させ、
ステップ３…整理した内容についての違いや共感に注目し、生徒同士で意見交換をしながら、道徳的価値の自覚をより深め、
ステップ４…生徒が導いた「授業のねらい」に関わる言葉を生かし、自己の生き方を振り返らせる。

このステップ１～ステップ４までの学習展開を道徳授業に組み込むことで、生徒自ら道徳的価値を内面的に自覚できる授業展開を試みた。

・　自身の思考を深めていくことは、自然と自分自身と向き合うことになり、自己内対話を進めていくことにもつながった。
・　話し合うために自分の考えを言葉にし、受け止めてくれる人に表現していく過程で、生徒は自分の考えを深めていった。
・　自分とは異なる価値観を知ることで、自分の価値観を改めて見直すことができ、自己理解や自己肯定感も育ち、つながりの中で生きている自分を感じる生徒が増加した。
・　自分とは異なる価値観を知ることで他者理解も深まった。本音で語り合うことで、価値実現の難しさ（人間理解）も深められた。
・　互いに話し合うことで自己内対話が進み、自分のよさを見つけることができた。それにより「自己肯定感」をもつ生徒が増え、自信をもって生活する生徒が増えた。
・　他者理解が進むことで、自分をとりまく人へ感謝の気持ちをもつ生徒が増えた。
・　積極的に話し合うことで、生徒同士に気持ちの交流が生まれ、学んだことを自分の生活に生かそうとする場面が増えた。
・　道徳授業内において話し合い活動を充実させていくことは、生徒の心を育てていく大きな力になることが実感できた。
・　「人として生きる意味」を共に考え、話し合うことで、クラス全員で学びを生み出す楽しさ

を感じる生徒が増えた。その結果、道徳授業を楽しむ生徒が増えた。
・ 何でも気軽に会話ができる雰囲気がクラスに生まれ、生徒同士の人間関係が温かなものとなった。

イ　話し合い活動を支える教師支援の工夫

●　話し合い活動を支える「心構えとルール」

話し合いを深めていくための教師支援として、次のような心構えとルールを設定した。

話すことの心構え…自己に問うつもりで言葉を発する。内なる心と対話する心構えをもつ。

聞くことの心構え…自らの考えを問いただす覚悟で聴く。分かっているつもりのことが、さらに深く理解できるかもしれないという心構え。発言している級友の言葉の奥にある気持ちや思いを想像しながら聴いていく。

●　生徒の発言を引き出す教師支援の工夫

生徒の本音や意見を引き出すための支援として、うなずき、相づち、笑顔、励ましの言葉など、発言者を励ます教師の働きかけ方を工夫し、意見が言いやすい雰囲気と環境をつくり出した。

・ 何でも気軽に会話ができる雰囲気が学級に生まれ、生徒の人間関係が温かなものとなった。
・ そうすることで、生徒の聴く姿勢に大きな変化が見られた。その変化は、生徒同士の他者理解を生み出していった。
・ 自分以外の人々の心の姿勢に気付き、他者を大切にする心が育まれていった。

（２）行動として発揮する場の設定（ボランティア活動の取り組み）

道徳の時間に育んだ道徳的実践力を行動として発揮する場を設定するため、さまざまなボランティア活動を計画し、実践した。生徒会主催のボランティア活動、学年や学級が企画したボランティア活動、各部活動で実施したボランティア活動、校区美化活動、地域行事へのボランティア参加など、幅広い内容でボランティア活動に取り組んだ。

・ 校区美化活動で地域の方から「ありがとう」「ご苦労様」などの声かけをしてもらうことで「地域のために役に立てた」と実感をもつことができ、地域への愛着を深める生徒が増えた。
・ 地域の文化祭やお祭りにボランティアとして参加することで、地域の一員としての自覚を深める生徒が増えた。
・ 地域とのつながりを感じることで、毎日の生活に感謝の気持ちをもつ生徒が増えた。

（３）家庭・地域との連携（道徳教育の積極的な情報公開・発信）

ア　学校公開日における道徳授業の公開

・ 学校公開日における授業参観では、必ず道徳の授業を公開をするよう機会を設けた。そうすることで、地域・学校・家庭が一体となった道徳教育を目指した。
・ 道徳授業を積極的に公開することにより、家庭でも道徳について話し合う機会が増えていった。家庭での親子の会話が活発になり、家族の絆を深めた生徒が多く見られた。

イ　道徳通信の発行

本校道徳教育の様子を家庭や地域に発信するため、道徳通信を発行した。道徳通信では、道徳授業の取り組みだけでなく、教科や総合的な学習と道徳との関連や学校行事での取り組みなど、道徳教育全般に関する事柄について情報を発信した。この道徳通信は、七宝北中の保護者だけではなく、七宝北中校区の２小学校の６年生保護者にも配布し、地域住民には回覧した。

・ 本校道徳教育の願いや意図を理解してくれる方々が増え、保護者や地域の方からも協力の申し出が増えた。特に、道徳授業におけるゲストティーチャーとしての参加や、校区美化活動や地域でのボランティア活動への協力や支援体制が充実した。
・ 保護者や地域との連携をもとに道徳教育を進めた結果、教師や生徒の視野が広がり、それぞれの実践において深まりのある学習展開ができた。

７　今後の課題

・ 「生徒が進んで話し合い学びを生み出す道徳の時間」のさらなる改善
・ 道徳の時間における効果的な資料提示の工夫
・ 道徳の時間におけるゲストティーチャーの効果的な活用方法の工夫
・ 道徳の時間に育んだ道徳的実践力を発揮する場の設定の工夫
・ 家庭や地域と連携するための情報公開や発信の工夫